

議事要旨(3) 財務業績と測定の連携に関する ASAF 会議提出ペーパー

冒頭、小賀坂副委員長より、2016 年 9 月開催 ASAF 会議のために当委員会から提出を予定している「財務業績と測定の連携」（以下「提出ペーパー」という。）について説明がなされた。その後、川西常勤委員より、審議資料に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - OCI のフルリサイクリングの考え方が提出ペーパーでは明示されていないため、当委員会のフルリサイクリングの主張が弱まった印象を与えることが懸念される。このため、提出ペーパーにおいて当該主張を明示的に言及すべきではないか。
 - 提出ペーパーでは測定基礎の選択において財務業績の観点を優先すべきであると示されるが、ASAF メンバーの考え方が様々であることを踏まえ、戦略的に説明する必要があると考える。たとえば、財政状態と財務業績の観定の測定基礎が異なる場合、財政状態の観点を優先するパターン、財務業績の観点を優先するパターン、それぞれで異なる測定基礎を選択し差額を OCI とするパターンがあり得ることについて、概念フレームワークで明示することを主張してはどうか。
- これに対して、事務局より、次の回答がなされた。
 - フルリサイクルの考え方は重要であると認識しているものの、提出ペーパーでは財務業績と測定の連携を図ることに焦点を当てている。議論の焦点がぼやけないように考慮して検討したい。
 - 測定基礎を選択する際、財政状態の観定と財務業績の観定について同等に重要と考えているものの、IASB の議論では財政状態の観点を優先する考え方を前提にしている印象があるため、敢えて財務業績の観点を強調する記載としている。
- ある委員より、次のコメントがあった。
 - IASB の議論では財政状態の観点を優先する考え方が強い現状を踏まえると、事務局の提案どおり、提出ペーパーにおいて財務業績の観点を強調する記載に異論はない。
- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 提出ペーパーのタイトルが「財務業績と測定の連携」となっているため、今回は財務業績と測定に焦点を当てた内容でよいと考えるが、OCI のフルリサイクリングは当委員会がこれまで主張してきた内容であり、別の機会に主張していただきたい。
- ある委員より、次のコメントがあった。

- 7 月の IASB ボード会議のアジェンダ・ペーパーで示された IASB スタッフの提案について、ASAF 会議のアジェンダ・ペーパーでは提案が見直されたとしても、正式に提案された以上、当委員会として当該提案にコメントすべきと考える。
- 財務諸表利用者が追加的な分析の出発点として純損益を分析に組み込んでいることを IASB が認識していることを踏まえ、当該事実をより深化・補強することによって、純損益の重要性を主張することはできないか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 単に純損益を維持するだけではなくその内容を重視しているため、頂いたコメントを踏まえ、純損益の重要性に議論をつなげていきたい。
- ある委員より、次のコメントがあった。
- 純損益に関する情報が満たすべき「アンカー」という表現が見直されているため、主張する内容が分かりやすくなったと考える。また、提出ペーパーの結論において、主張する内容が「最低限」である旨が示されており、事務局の提案に賛成する。

以 上